

氏名	松下 秀 介		
授与した学位	博 士		
専攻分野の名称	農 学		
学位授与番号	博乙第3781号		
学位授与の日付	平成14年 9月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文の題目	温州みかん作農家の市場対応とその経済性に関する計量分析		
論文審査委員	教授 佐藤豊信	教授 小松泰信	教授 横溝 功

学位論文内容の要旨

本研究の課題は、市場価格低迷下における温州みかん作農家の行動（生産面・販売面における市場対応方策の成果）を経済性の観点から評価することにある。評価の方法は、一貫して、温州みかん作の手作業を主とする労働使用的技術特性を考慮した計量分析モデルを構築・推計し、各市場対応方策の費用・便益の比較分析することによった。

具体的には、第1に、装備区分別の費用関数の推計と平均費用曲線の導出により、温州みかん作では、装備区分間における平均費用の産出規模間格差（規模効果）が存在しない、つまり、経営規模拡大が農家の収益性改善に結びつかないことを解明した。

第2に、生産過程の区分、要素投入の特質を考慮した投入・産出モデル分析により、追加的摘果労働投入の便益（均衡賃金）を数量的に把握し、短期的には、追加的摘果労働投入が必ずしも全ての農家の収益性改善に結びつかないことを解明した。

第3に、摘果作業重点化のための労働力を確保の観点から、防除作業省力化技術であるSS（スピード・スプレーヤ）利用の経営計画モデル分析により、少なくとも経済性の観点からはSS体系が慣行体系よりも有利であるとはいえないことを数量的に確認した。

最後に、柑橘の栽培品種選択に起因する作期分散を考慮した多財費用関数モデルにより、費用水準・価格変動に関するリスクの両面から、消費者への直接販売が共同販売よりも経済的に有利な販売形態であることを解明した。

以上の分析により、市場価格低迷下における温州みかん作農家の対応方策については、必ずしも全ての農家にとって有効であるとはいえないが、摘果作業重点化による高品質化、消費者への直接販売による販売先の多様化の2方策が経済合理的であることが明らかとなった。

また、以上の結論から、摘果作業、選別・箱詰作業を対象とした技術開発・普及の側面からの支援、産地を単位としたものだけではなく個々農家を対象とした政策的支援・指導の必要性が明らかとなった。

論文審査結果の要旨

本研究の課題は、市場価格低迷下における温州みかん作農家の行動（生産面・販売面における市場対応方策の成果）を経済性の観点から評価することにある。

具体的には、第1に、装備区別の費用関数の推計と平均費用曲線の導出により、温州みかん作では、装備区分間における平均費用の産出規模間格差（規模効果）が存在しない、つまり、経営規模拡大が農家の収益性改善に結びつかないことを解明した。

第2に、生産過程の区分、要素投入の特質を考慮した投入・産出モデル分析により、追加的摘果労働投入の便益（均衡賃金）を数量的に把握し、短期的には、追加的摘果労働投入が必ずしも全ての農家の収益性改善に結びつかないことを解明した。

第3に、摘果作業重点化のための労働力確保の観点から、防除作業省力化技術であるSS（スピード・スプレーヤ）利用の経営計画モデル分析により、少なくとも経済性の観点からは、SS体系が慣行体系よりも有利であるとはいえないことを数量的に確認した。

第4に、柑橘の栽培品種選択に起因する作期分散を考慮した多財費用関数モデルにより、費用水準・価格変動に関するリスクの両面から、消費者への直接販売が共同販売よりも経済的に有利な販売形態であることを解明した。

以上の分析により、市場価格低迷下における温州みかん作農家の対応方策については、摘果作業重点化による高品質化、消費者への直接販売による販売先の多様化の2方策が経済的であることが明らかとなった。

また以上の結論から、摘果作業、選別・箱詰作業を対象とした技術開発・普及の側面からの支援、産地を単位としたものだけではなく農家個々を対象とした政策的支援・指導の必要性が明らかとなった。

これらの知見ならびに分析モデルは、問題を抱えている温州みかん作経営に対して、有効な分析手法・対策を提示するものである。本学位審査会は、これらの成果を総合的に審査し、本論文が博士（農学）の学位に値するものと判定した。